

2020年9月24日

各位

ギャルリ・ミレー運営委員会
株式会社 北陸銀行

海外貸出作品の返却に伴う常設展の一部展示替えについて
～「羊の毛を刈る女」が1年ぶりにギャルリ・ミレーに戻ってまいりました～

ギャルリ・ミレー運営委員会では、海外の美術館に貸出しておりました2作品が展示を終え、このほど当館に戻ってまいりましたので、下記の通り常設展の一部を展示替えし、公開いたします。

記

1. 新常設展の概要

開催期間	2020年9月25日(金) 午前10時より 2021年3月28日(日) 午後5時(入館は午後4時30分)まで
内容	昨年10月より、ゴッホ美術館(オランダ)とセントルイス美術館(アメリカ)に貸出していた2点の作品「羊の毛を刈る女」「洗濯する女たち」が戻りましたので、常設展にて公開いたします。

2. 該当するSDGsの目標



SDGsは Sustainable Development Goals の略称で、2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき17の目標と169の具体的なターゲットを定めた「持続可能な開発目標」です。
ほくほくフィナンシャルグループは、2019年4月に「SDGs宣言」を表明しました。

まちなか美術館「ギャルリ・ミレー」は、今後も中央通りの賑わいの創出に貢献できるよう努力してまいります。

以上

<お問い合わせ先>

〒930-0044 富山市中央通り2丁目1番20号 ギャルリ・ミレー運営委員会 事務局
TEL/FAX(076)423-7220

【収蔵作品が海外から戻ってまいりました！】

ゴッホの作品を数多く所蔵し、世界中から多くの来館者が訪れるゴッホ美術館とアメリカの主要美術館の一つであるセントルイス美術館。この二つの美術館が共同で企画・開催した展覧会に出展しておりました2点の作品「羊の毛を刈る女」、「洗濯する女たち」が当館に戻ってまいりました。

新型コロナウイルスの感染が世界中に広まり、セントルイス美術館でも4月から6月にかけては休館となってしまいました。当初は5月に展覧会を終え、作品は6月に日本へ戻る予定でしたが、美術館再開後、展覧会の会期は9月まで延長されました。このほどようやく会期が終了し、1年ぶりに戻ってきたものです。

ヴァンゴッホ美術館 2019年10月4日－2020年1月12日
(オランダ・アムステルダム)

セントルイス美術館 2020年2月16日－2020年9月7日
(アメリカ・セントルイス)

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814-1875) は19世紀後半になってから、広く評価された画家です。この展覧会では彼の様々な表現から、近代美術の歴史に影響を与えた画業の重要性に焦点が当てられていました。ミレーの革新的な絵画技法、モダンなスタイル、そして農民生活のインスピレーションに満ちた描写は、現代美術へと繋がっています。そして彼の作品が、ゴッホ、モネ、ムック、ダリなどの有名なアーティストの芸術活動にどのような影響を与えたのかを探求したこの二つの展覧会には、世界各国から多くの人々が訪れたということです。



「羊の毛を刈る女」



「洗濯する女たち」

ミレーとバルビゾン派の画家たち

2020年9月25日（金） — 2021年3月28日（日）

※は海外貸出より戻った作品

作品番号	作家	作品名	制作年	技法
今なぜ、ミレーなのか				
1	ジャン=フランソワ・ミレー	母と子	1843-45年頃	油彩
2	ジャン=フランソワ・ミレー	夕暮れの村の道	1847-49年頃	油彩
3	ジャン=フランソワ・ミレー	洗濯する女	1847年頃	油彩
4	ジャン=フランソワ・ミレー	釣り人と青い服の少女	1846-49年頃	油彩
5	ジャン=フランソワ・ミレー	※ 洗濯する女たち	1857-60年頃	鉛筆に白でハイライト

バルビゾンとは

6	ルイ=エメ・ジャピー	羊を連れ帰る羊飼い	1884年	油彩
7	シャルル=エミール・ジャック	夕暮れの積みわらのそばの羊飼い	不明	油彩
8	ジャン=フランソワ・ミレー	※ 羊の毛を刈る女	1860年頃	油彩
9	レオン=ヴィクトール・デュプレ	水浴する牛	1855年	油彩
10	シャルル=フランソワ・ドービニー	モレ=シュル=ロワンへの道	不明	油彩
11	ジョルジュ・ミシエル	田園風景	不明	油彩

バルビゾンのプレイヤー

12	シャルル=フランソワ・ドービニー	ブソンの小島	1851年	油彩
13	ジャン=バティスト=カミーユ・コロ	森の中の水飲み場	1872年頃	油彩
14	ジャン=フランソワ・ミレー	鷺鳥番の少女	1865年頃	油彩
15	ナルシス=ヴィルジル・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	林間の空地	1870年頃	油彩
16	ジュール・デュプレ	昼下がりの牧場	1860年代初め	油彩

自然からなにを学ぶのか

17	ジャン=フランソワ・ミレー	兎のいるアプルモン溪谷の日の出	1860-62年頃	油彩
18	ジュール・デュプレ	たそがれ	1880年代	油彩
19	アントワーヌ・ヴォロン	モンマルトルの丘	不明	油彩
20	エミール=シャルル・ランビネ	釣り人	不明	油彩
21	ジャン・フェルディナン・モンシャブロン	牧場	1888年	油彩